

枚岡・瓢箪山界限 カメラを片手に

やまなみプラザ

(コース) 枚岡神社→姥が池→暗越奈良街道→豊浦谷水車跡→勸成院 (芭蕉の句碑、シロの供養碑など) →中村代官所跡→権現塚→宝蔵新家辻→枚岡神社一の鳥居→道路改修記念碑→河内寺→瓢箪山駅

集合日時 10月28日



散歩マップ



マップ参考：東大阪市文化財ガイドブック

枚岡神社



河内国の一の宮。主神は、中臣氏(藤原氏)の祖神のアメノコヤネノミコト、ヒメノカミ。後に奈良春日大社からタケミカツキノミコト、フツヌシノミコトを分霊され4神となる。現地に祀られたのは孝徳天皇の代の白雉元年(650)と伝わる。日本の第一級の神社で元春日といわれる。

皇室は勿論のこと中世では平清盛や源義経が参拝し、宝物を奉納していると伝わる。神社の当方屋根上に神津嶽(かみつだけ)と呼ばれる山嶺があり、神の降臨地として祀られている。

水走氏は中世の豪族で、今も地名を残す平岡連(ひらおかのみらじ)の末裔であり、この社の神官も兼ねた。

1月11日に行われる粥占神事は、古代から実施され大阪府の無形民俗文化財に指定されている。

姥ヶ池と井原西鶴



枚岡神社のすぐ北側のハイキング道の横に池が整備されている。この池には昔で青白い炎が現れるという姥ヶ池火の伝説がある。これは枚岡神社の神燈の油が毎夜なくなり妖怪の仕業と恐れられたが、その正体は貧しい老婆であった。老婆が釈放されたがこの池に投身自殺した。井原西鶴もこれを素材に物語を書いている。

暗越奈良街道



暗峠 筆者画

古代から大坂と大和を結ぶ最短距離の街道。幕末のお伊勢参りでは1日に多いときは8万人が往来したと言われる。松原旧宿場は幕府が認めた唯一な宿場であり、暗峠では宿屋や酒屋など20軒以上あり賑わっていた。日本の道100選に選ばれている。しかし、暗峠へは坂道がきつく、難所の一つでもある。

豊浦谷の水車群



豊浦川沿いに、大正時代まで20数か所の水車小屋があった。伸線のほか、精米、精麦、金属粉末などで、導水路、排水路などが残っている。

東大阪市の伸線工業の生産量が過去に全国一の時代がある。また、鉄線関連のネジやボルト製品製造が盛んな原点はここにあると言える。

勸成院



境内には本堂に向って右側に、寛政11年（1799）豊浦村の俳人中村来紹が松尾芭蕉没後100年のため建立した句碑がある。（河内名所図会所載、東大阪市指定文化財）碑面 **菊の香にくらがり登る節句哉 芭蕉翁碑陰 九月重陽の日、奈良から大阪へ出る道すがら、この暗峠を越へ「菊の香」の句を残した。これが芭蕉最後の旅となり同年10大阪花屋の奥座敷で没した。**

この句碑は、もと峠の街道筋にあったが、いつしか埋没行方不明になっていたものが大正3年、大雨で出現、勸成院の境内に移し建てられた。

芭蕉の句碑はもう一つあり、寺の前の峠道を約百米ほど登ったところにある。同じく「菊の香に」の句を刻している。これは明治22年、俳句結社六郷社の有志により前記句碑が不明のため再建されたもので、大阪の豪商で町人文学者であった平瀬露香の筆になり、自然石に刻まれている。



右側の無縁石塔の横に「愛犬皓」の碑がある。

これは大阪の文人、摂津名所図会の作者・暁鍾成が愛犬皓（しろ）を連れて天保6年（1835）、奈良への途次、暗峠で賊に会い、愛犬皓が身代りとなり殺されたことを悼み建立された。

当寺所蔵の旧過去帳には大正3年近鉄旧生駒トンネル開削の際の犠牲者67名の氏名が列記されている。（日蓮宗梅龍山勸成院之記を参考）

権現塚と中村代官所跡



中村代官所跡



権現塚

箱殿交差点を少し上がると黒い生駒石の権現塚がある。大阪冬の陣の時、慶長19年（1614）は、徳川秀忠。翌年、夏の陣の際、家康が本陣にした中村代官屋敷址にある。家康が泊まった時期は旧暦5月5日で端午の節句、当主の中村四郎は土地の名産、河内木綿を勝布と称し献上した。家康は縁起を担ぎ、戦の勝利につながると喜んだ。この3日後に大阪城が落城したのであった。そして家康は、当主に感状と刀を与え、街道の要所である奈良街道や東高野街道（京道）の取締りの権限を授与した。

宝蔵新家の四つ辻



生駒山麓の箱殿の暗越奈良街道と東高野街道と交差する辻、四つ辻とも呼ばれていたところに道標が、街道の脇にひっそりと建っている。

この南北に走る東高野街道（別名、京道とか紀伊道といわれる）が昔の浜だったといわれ道標の横に弘法大師を祀る祠堂がある。まさに歴史が交差する箇所である。この道標はもともと交差点の東南角に建てられていた。横の自然石は、以前は田んぼのあぜ道に架けられていた。

踏んだ人が、次々と災難にあうのでここに移されたという。

枚岡神社の一の鳥居と燈籠



東高野街道から枚岡神社への参道口がある。鳥居の向こうに見える生駒山に少し盛り上がっている神社の神津嶽が見える。鳥居町という地名のいわれの大きな一の鳥居がたっている。傍らの燈籠は、貞享2年（1685）に建てられたもの。10月15日、秋祭には八地区の氏子が太鼓台をかついでここに集合し、神社に宮入りする。

中西家と文芸サロン



縄手北中学校の西側にある喜里川村の庄屋の中西家は、江戸時代後期の文芸サロンだった。中西重孝（多豆廼屋）と中西重保（多豆伎）父子を中心として、近隣の文人を初めてとして大和郡山の柳里恭や本居宣長など師として文芸活動を行う。大和郡山の家老柳沢家に生まれた柳里恭作、「雪中叭々鳥凶」や中西家に伝わる庄屋文書、書籍は市の文化財に指定されている。

中西家ゆかりの長谷川清澄画伯の画
喫茶「喜里」

街道改修記念碑



商店街のアーケードが途切れるあたりで旧街道は東側に走る。ここで新道と旧道が分かれ、そこに道標と道路改修記念碑が建っている。旧街道の道幅は本来、狭い道だったが、昭和12年6月に貞明皇太后が枚岡神社に行啓の際に幅員拡張や新道の工事する。記念碑と説明版が設置されている

廃寺、河内寺(こんでら)跡



河内町の一画に「河内寺」と書いて『こんでら』と読む小字名が残っている。

中西多豆伎が江戸時代後期に出土した瓦の文字から河内寺跡と注意していた。寺域は東西Ⅰ町、南北Ⅰ町半と広く伽藍配置が四天王寺形式である。河内郡の郡寺と考えられる。最初に用いられた軒丸瓦は、高句麗様式のもので飛鳥時代後期に創建され鎌倉時代まで存続していた。全国的に注目されている河内寺跡と言えよう。

2008年に国の史跡に指定された。

(以上参考 東大阪市文化財ガイドブック 発行 同教育委員会)